



環境課  
587 - 6003  
助 587 - 3834



# 3Rの推進でごみの抑制を

1万4146トン。

これは、市内で平成21年度1年間に排出されたごみ(一般廃棄物)の総量です。平成20年度に比べて836トン(6.3%)も増加しています。この量には企業・事業所などの産業活動に伴う産業廃棄物は含まれていません。

平均すると一人当たり年間約280kgものごみを排出していることとなります。一方、ごみの処理に係る経費は年間約8億円を超えており、ごみ排出量の増加は当然処理経費の増加にもつながります。

では、どのようにすればごみを減少させることができるのでしょうか。

大切なことは『3Rの推進』です。3Rとはごみを減らし循環型社会をめざす3つのキーワードです。

## 1 つ目のRは「リデュース」(排出抑制)です。

必要の無いものは買わない、使い捨てなどごみになるものは使わないなど、ごみの発生そのものを減らすという方法です。パック売りではなく必要な量をばら売りで買うとか良い家具を長く使うなどの考え方です。

## 2 つ目のRは「リユース」(再利用)です。

ごみとして処理するのではなく、洗浄や修理をしてもう一度使うことです。ビールびんや牛乳びん等はリユースの代表です。野洲市でも活用可能な粗大ごみ等を(仮称)野洲市リユースセンターで定期的に無償譲渡しています。

## 3 つ目のRは「リサイクル」(再生利用)です。

ごみとして処理するのは

### 第6回リユース物品の展示および無償譲渡会

粗大ごみ等の減量をめざし、物品のリユース(再利用)の推進を図るため開催します。ごみとして処分するのではなく、まだ使えるリユース物品として展示します。

日時...10月31日 午前10時~11時

場所...(仮称)野洲市リユースセンター(西河原2419・旧消防署車庫)

対象物品...家具類、チャイルドシート、食器類、陶磁器類、バッグ類

譲渡対象者...市内在住者

譲渡申込方法... 午前10時~11時に希望するリユース品に対し1人第3希望まで申し込みをします。午前11時に譲り渡す人を決定します。(複数申し込みがある物品については抽選)

注意事項...引き渡し後のリユース物品は返品不可。リユース物品の瑕疵責任は負いません。リユース物品の第三者への譲渡は禁止します。



無償譲渡会の展示品

### 毎月第4土曜は 廃食用油回収の日

10月23日 午前10時~午後1時

回収会場：市役所別館(旧コミセンやす)横電話ボックス付近

回収物：廃食用油、牛乳パック、アルミ缶  
環境課 587 - 6003、エコロジーマーケットやすの会・増村 586 - 1441

### エコドライブ講習会 受講者募集!

「エコドライブ」は、ガソリンなど燃料の消費を抑えた運転方法。つまり省エネ運転です。受講後は、「野洲市エコドライブ推進リーダー」として、市内での普及活動にご協力いただきます。ぜひご参加ください。

日時：11月12日 午前9時~午後3時

会場：中主防災コミセン2階防災研修室

対象：今後、市内においてエコドライブの普及活動に携わっていただける市内在住・在勤者で普通自動車運転免許取得後3年以上経過している人、先着15人  
内容：エコドライブインストラクターの指導による体験実習、エコドライブの効果についての講習

主催：環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」、環境課  
受講料：無料

申し込み・問い合わせ：11月5日 までに住所、氏名、電話、

ファクス番号、所属している団体または事業所があればその名称を電話、ファクス、

Eメールのいずれかで環境課、Eメール

kankyou@city.yasu.

lg.jp



# 歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(73)

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

【10月の休館日】月曜・火曜日 11日は祝日開館

秋期企画展「史跡大岩山古墳群の全貌」  
/ 10月2日 ~ 11月23日

野洲の歴史入門講座「大岩山古墳群とその時代」  
/ 10月14日 午後2時~4時 講師...杉本源造(市文化財保護課) 当日受付・要資料代

記念講演会「林ノ腰古墳と大岩山古墳群」  
& 現地ウォーク / 10月16日 午後2時~4時30分  
講演後、甲山古墳・円山古墳・天王山古墳・大塚山古墳を案内 / 対象...どなたでも / 講師...辻川哲朗さん(県文化財保護協会) / 申し込み...電話にて同館

記念講演会 / 11月6日 午後2時~4時30分  
「大岩山遺跡群発見学史」花田勝広(市文化財保護課) / 「近江の古墳と大岩山古墳群」細川修平さん(県教育委員会)

陶芸作品・穴窯焼成のご案内 [博物館友の会陶芸部]  
作品搬入...11月14日 まで / 焼成期間...11月17日 ~ 23日 / 参加費...一口5,000円(粘土3kg・焼成費用含む、友の会に要入会)

## 「三上山下古墳」と甲山古墳

大岩山古墳群は、小篠原、富波、辻町に所在する8基の古墳(甲山古墳、円山古墳、天王山古墳、富波古墳、古富波山古墳、亀塚古墳、大塚山古墳、宮山2号墳)の総称です。1941(昭和16)年に甲山古墳、円山古墳が国の史跡指定を受け、1985(昭和60)年には残りの6基が追加指定されました。

大岩山古墳群の桜生地区古墳整備事業は、1993(平成5)年度から2000(平成12)年度の8年間実施されました。それぞれの古墳を整備するため、事前に発掘調査を行った結果、桜生史跡公園内の各古墳の正確な墳丘規模や石室内部の石棺、石棺内外の出土遺物などから多くの知見を得ることができました。

中でも甲山古墳は、丘陵の北西端に立地する直径約30m、高さ8mの円墳であることがわかりました。築造年代は6世紀前半と考えられます。西側に向けて開口する横穴式石室は、全長約14mにもなります。もろい花崗岩の風化土壌を基盤とする丘陵が侵食され、石室内に多量の土砂が流れ込んでいたため、1994(平成6)年度の発掘調査の際には、西側の入り口からは石室内部へ入ることはできませんでした。石棺を安置する玄室には、熊本県宇土半島馬門産の阿蘇溶結凝灰岩をくり抜いた家形石棺が置かれていました。家形石棺の大きさは、たて2・60m、よこ1・56m、高さ1・12mです。石棺の内外面には手斧の加工痕が残り、石材表面は赤色の顔料が塗布されていました。分析調査の結果、赤色顔料は水銀朱とベンガラであることがわかりました。

石棺内の遺物はすでに持ち出され、ガラ入玉2点だけが残っていました。石棺周辺に堆積した土砂をふるいにかけて水洗いすると、緑色、黄色、青緑色のガラス玉(約7600点)、馬具、甲冑、大刀、鉄鏃、金系などの小破片が見出されました。その中でも、馬甲は日本国内では埼玉県行田市の埼玉將軍山古墳、和歌山市の大谷古墳からの出土が知られていました。甲山古墳出土の馬甲が3例目となります。お隣の韓国では釜山市や慶尚南道などから15例の発見があります。

1898(明治31)年、三上山下古墳から銅鏡2面(帯鏡)が出土しました。この銅鏡2面は、6世紀中葉の年代で、同型鏡が群馬県高崎市の綿貫観音山古墳と韓国公州市の武寧王陵(百濟王)から各1面が出土しています。「三上山下古墳」の位置は、京都帝国大学の梅原末治氏が、その著作の中で述べています。その場所は「広い意味の三上山の麓とも云うべき位置にある」としていましたが、後日「大岩山のある小篠原」に訂正されています。

地元桜生の方々の昔の聞き取り調査によると、明治31年頃に石室が開いていた大型古墳は甲山古墳だけだそうです。銅鏡2面は、甲山古墳から出土した可能性が高いのです。甲山古墳は、野洲川下流域の有力者として大和の中央政権に参画し、百濟とも交渉をもった人物の墓と推察されます。

(博物館学芸員 徳網克己)



甲山古墳の石室